

悪政活用で、被災学生へ就学支援金

大震災の発生直後には、我が農家だけでなく、近隣のほとんどの農家も、支援金以外に、毛布や衣類、或いは、炊きだし月のお米など半座の色々な支援品を被災地に向けて送りしました。

被災者の方は、下滞足ながらも半座の衣・食・住が丸半された次ぎは、働き先がないなど生活基盤が破壊されたことから派生する悩みが問題になります。特にお子さんの養育や就学など問題は山積です。

私には、農水省以外のことは詳しく判りませんが、多分、各省庁の予算の中にもムダや下専下急の予算は沢山あるはずで。

このため、幅広い被災者支援のために、政府が、震災復旧に予算を全額組み替えしてくれることを期待しました。

でも、農林予算では、ムダな戸別所得補償だけでも今年も六千億円も計上されていたのですが、組み替えは一日行われませんでした。

ところで、同じ東北で被害を免れた私たちには、岩手、宮城、福島など震災した家庭の子弟が、秋田県内の大学に就学し、就学継続について休んでいる学生が数百名いることが目につきました。

経済的な余裕が少ない私たちであっても、何かお手伝いできないかと心に留めていました。

こうした中で、日植えが終わった頃、農水省から戸別所得補償制度に参入していない私たちに、「津波の塩害や月水路の破壊で、日植えが出来ない被災農家の代行生産申請を行うことによって、制度に参入して欲しい。」という要請が舞い込んできました。

そこで、この制度を拒否している戸別農家仲間「所得補償制度は全く評価できないが、制度に参入することで私たちに交付される補償金で、①被災農家を支援し、②残りの全額を、被災地から秋田県内の大学に就学している学生の支援金に活用しよう。」と呼びかけたところ19戸の賛同を得ることができました。

戸別所得補償制度に参入すれば、年から基本補償金として、19戸合計で約3千万円という巨額な下学所得が与ります。(今年は米価堅調で追加補償は無い見込みですが、米価が下落した昨年なら追加補償金が3千万円。合わせて1億円も交付される制度なのです。)

私たちは、この基本補償金が支払われる時期を迎えたので、この年の約半分を、被災農家に代行生産の「とも補償費」として送り、残りの全額である二千万円余りを、被災家庭の就学資金に贈るため、今、秋田県にある大学の学生課の協力を要請しているところです。(詳しくは<http://ogata19.jimdo.com> 参照)

震災復旧には、現場で多くの方々が日夜頑張ってくれています。でも政府の方針が悪ければ効率上がりません。政府は、増税議論に明け暮れていないで、ムダな予算を根本から見直すなど定見を持って欲しいものです。

「お上に制度政策あらば、民には対策あり」。以上、悪政に対する市民のささやかな対応(対策)事例と、ムダな悪政実態のご紹介と致します。

